2022（令和 4）年 6 月 29 日
「日本言語学会第 164 回大会の報告」
発表者：ファイズエワ ザリナ（東京外国語大学大学院博士前期課程）

2022 年 6 月 18 日と 19 日に日本言語学会の第 164 回大会が開催された。今年度の言語学会は昨年と同様に、オンラインで行われた。1 日目のラインアップは 6 会場で計 39 件の口頭発表と 6 件のポスター発表があった。2 日目は、ワークショップが 3 件と「言語脳科学が切り開く言語学の未来」というタイトルの公開シンポジウムが行われた。

本報告では、口頭発表より 2 件、田口智大氏の「名詞述語を伴う繰り上げ構文としての人魚構文」と日高晋介氏の「ウズベク語における小詞 =*chi* の機能」を紹介した。発表の要点は下記の通りである。

田口氏は「典型的な人魚構文は名詞述語を伴った繰り上げ構文 (raising construction) と して扱うべきである」と主張し、「名詞述語の繰り上げ構文という新たな繰り上げ構文の類型」を提案している。

次に、日高氏の発表を紹介した。ウズベク語の小詞 =*chi* について先行研究に記されている機能は=*chi* 自体かが担うとする分析には再考の余地があると考え、テキストとインフォーマント調査を行った。調査の結果、=*chi* は、前提との関係を標示するという機能を持ち、次の 三つの用法 1. 対比疑問、2. 主題標示、3. 促しを持つことを明らかにしたと述べる。